

保育施設における 3 歳未満児の生活の流れからみた  
屋外環境のあり方について

A Study on Outdoor Environments in Nursery Schools from the Viewpoint of Daily Activities of  
Infants under 3 Years Old

長谷川 恵 美  
Megumi HASEGAWA

定 行 まり子  
Mariko SADAYUKI

日本女子大学大学院紀要  
家政学研究科・人間生活学研究科  
第 24 号

# 保育施設における3歳未満児の生活の流れからみた 屋外環境のあり方について

A Study on Outdoor Environments in Nursery Schools from the Viewpoint of Daily Activities of  
Infants under 3 Years Old

長谷川 恵 美\* 定 行 まり子\*\*  
Megumi HASEGAWA Mariko SADAYUKI

**Abstract** In this study, we mainly targeted infants under 3 years old and investigated how differences in architectural environments influence the behavior and daily life of children at nurseries in order to suggest ideal nursery environments that support the development of children. When government and nursery operators plan childcare facilities in urban areas, the locations are greatly affected by whether dedicated playgrounds are needed or not. Now, therefore, we focus on “the presence or absence of dedicated playgrounds” first, and clarify what kind of differences can be seen in daily activities and experiences based on participant observations. As a result, it suggests that the nurseries without dedicated playgrounds tend to lengthen outdoor activity time and shorten the length of naps.

**Key words:** Infants under 3 years old 3歳未満児, Childcare Facilities 保育施設, Outdoor environment 屋外環境, Playground 園庭, Nursery schedule 保育スケジュール

## 1. はじめに

2016年4月時点の年齢区分別待機児童数は、3歳未満児が全待機児童数の86.8%を占め、3歳未満児の保育所利用率も近年上昇傾向にあるという<sup>1)</sup>。これを受け、3歳未満児を中心とした待機児童の解消を目指し、保育施設の量的拡大が進められている。園庭を有する従来の保育施設に加え、園庭を持たないものや、保育者の居宅を利用した保育施設などが増え、保育環境は多様化しつつある。それぞれの保育環境において、子どもたちが受ける保育の質がどのように異なるのか、これから議論になっていくであろう。本研究では3歳未満児を主な対象として、保育所園舎や園庭などの建築環境条件の違いが、保

育所における子どもの生活と行動にどのような違いが見られるのか実態を明らかにし、子どもの育ちを支える保育環境のあり方を考察することを目的とする。戸建て・マンション等の住居を利用した園舎、事務所ビル内の園舎、高架下を利用した園舎など建築環境条件の違いは複数考えられるが、本論ではまず、保育需要の高い都市部で保育施設を計画する際、立地を大きく左右する屋外遊技場（以下、園庭）の有無に焦点を絞り、園庭の有無によって保育所における3歳未満児の生活の流れ、戸外活動での経験にどのような違いが見られるのかを明らかにする。

## 2. 方 法

### 2-1. 調査対象園

運営会社が同一の認可保育所の中から、地域環境（都市/郊外）、施設規模（大規模/中規模/小規模）、諸室等設置状況（屋外遊技場・園庭有り/無し）の観点から条件の異なるA・B・Cの3園を選択した。各

\* 人間生活学研究科 生活環境学専攻  
Graduate School of Human Life Science, Division of  
Living Environment

\*\* 住居学科  
Department of Housing and Architecture

園概要を Fig. 1 に、平面図を Fig. 2, 3, 4 に記す。なお、運営会社が同一の認可保育所から調査対象園を選出した理由は、園ごとの保育理念および保育方針の違いによる影響が少なく、より建築環境要素と生活の流れの関係を比較検討しやすいと考えたからである。

2-2. 調査方法

調査方法は (1) 各施設長へのヒアリング、(2) 参与観察調査である。調査概要を Fig. 1 に示す。

(1) 各施設長へのヒアリング

園生活の大きな1日の流れ、子どもの発達の様子や園児の現員構成、保育空間の使用状況等について質問し、調査実施計画時の参考とした。

(2) 参与観察調査

午前9時から17時の間、0・1・2歳児クラスを中心に参与観察調査を実施した。観察は「消極的な参与」(柴山, 2006)<sup>2)</sup>とした。戸外活動や食事などの各行為が行われた生活時間および場所を調査し、1日の保育の流れについて把握する。また併せて子

|                | A園   | B園  | C園   |
|----------------|--|---|--|
| 立地             | 東京都23区内  | 埼玉県   | 東京都23区内  |
| 園庭             | なし   | あり(東側:270.85m <sup>2</sup> ,西側:156.53m <sup>2</sup> 以上)   | あり(171.47m <sup>2</sup> )  |
| 特徴             | ・3階建事務所ビルの1階及び2階を改修した園舎。<br>・0・1歳児クラスは終日1階ほふく室・乳児室で過ごし、3～5歳児クラスは終日2階保育室で生活する。2歳児クラスは午前朝会后から午後夕会前までの間、2階で生活する。<br>・園庭がないため、戸外活動は代替園庭(4か所)へ移動して行う。 | ・線路沿いに長いプラン形状であり、園舎中央に吹抜けを介して2階とつながりのある大空間(遊戯室1-1)を有し、園舎の東西端に2つの園庭を持つ。<br>・0・1歳児クラスは2階を中心に生活するが、食事や午睡時には1階で過ごしている。2～5歳児クラスは終日1階で生活する。 | ・1階から2階を繋ぐ長いスロープ(全長約45m)を有する。<br>・0～2歳児クラスをみの保育を行い、1歳児クラスは現員27名と3園の中で一番人数規模が大きい。<br>・0・1歳児は終日1階で生活し、2歳児クラスは午前朝会后から午後夕会前までの間、2階で生活する。 |
| 建物タイプ          | 賃貸型(改修)  | 新築  | 新築   |
| 階数             | 3階建の1～2階部分   | 2階建   | 2階建  |
| 運営             | 私立認可保育所  | 私立認可保育所   | 私立認可保育所  |
| 開園年            | 2010年4月  | 2012年4月   | 2017年4月  |
| 延床面積           | 630.63m <sup>2</sup>   | 757.19m <sup>2</sup>  | 498.51m <sup>2</sup>   |
| 現員<br>※5月時点    | 0歳児:6名, 1歳児:16名<br>2歳児:17名, 3歳児:16名<br>4歳児:16名, 5歳児:16名  | 0歳児:9名, 1歳児:11名<br>2歳児:17名, 3歳児:18名<br>4歳児:18名, 5歳児:18名   | 0歳児:6名<br>1歳児:27名<br>2歳児:14名   |
| 参与観察調査<br>実施日時 | ①2017年5月8日8:30～17:30<br>②2017年5月16日8:30～17:30*<br>③2017年5月24日9:00～17:00<br>*0・1歳児クラスは午後12:00迄  | ①2017年5月22日9:00～17:00<br>②2017年5月31日9:00～17:00  | ①2017年5月16日9:00～13:00<br>②2017年6月29日9:00～17:00   |

Fig. 1 Outline of the Survey

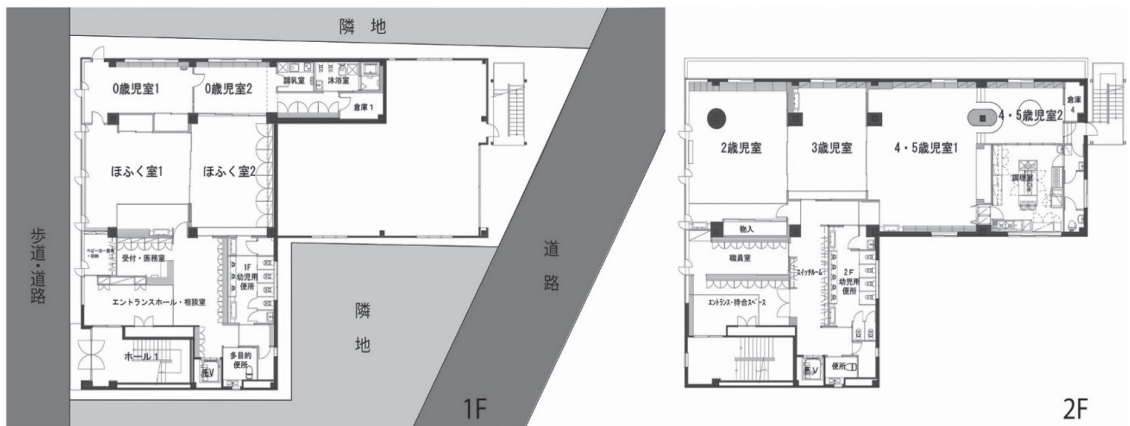


Fig. 2 Plan of nursery A



会等の特別行事のない日を選択した。

### 3. 結果

#### 3-1. 各園の生活の流れ

0歳児クラスは各子どものリズムに沿って、睡眠や排泄、自由遊び等が展開され、個人差が大きい。ここでは1・2歳児を中心に生活の流れを見ていく。Fig. 5, Fig. 6に1・2歳児クラスの生活の流れを、各活動の時間長さをFig. 7に示す。3園ともに運営会社は同一であり、保育方針、保育理念等は全て共通であった。順次登園から自由遊び、朝の体操を経て朝会、午前おやつ、外遊び、昼食など一連の生活の流れは全園おおむね共通していることが分かる。しかし(1)室内自由遊び、(2)設定保育(製作遊び、読み聞かせ等)、(3)午睡時間、(4)戸外活動、の実施状況及び時間長さに違いが見られた。

##### (1) 室内自由遊び

全園順次登園から朝の体操までの間と、夕会後から順次降園までの間は、室内自由遊びの時間として毎日確保されている。これに、戸外活動前、または戸外活動後から昼食の間の時間帯に、室内自由遊びの時間を設けている。その長さは園ごとに異なり、日によって設定保育に入れ替わることもあり、2歳児クラスについてはほぼ設定保育の時間となる。1歳児クラスの場合として、A園では約25分、B園は約20分から60分程度、C園では約50分であり、A園がやや短い傾向であった。

##### (2) 設定保育(製作遊び、読み聞かせ等)

今回実施されていた設定保育は、英語保育(2歳児以上)、歌遊び(練習含む)、製作遊び、読み聞かせ(手遊び含む)である。英語保育を除き、戸外活動後から昼食前の時間帯に行われていた。製作遊びについては、全員一斉に行う場合と、2～3名が入れ替わりで自由遊びと並行して行われる例が見られた。読み聞かせは、手遊びと交互に行われ、戸外活動や自由遊び、食事など大きな活動へ移行する場面で、排泄や戸外活動の身支度、着替え、配膳と並行して行われている例が多く見られた。また実施される時間帯も細切れ状に分布していた。

##### (3) 午睡時間

食事終了後、順次着替え、排泄等が済んだものから就寝する流れは共通である。0歳児クラスは1・2歳児クラスより午睡開始時刻が早く、起床時刻も早

い傾向があるが、基本は各子どものリズムに沿って決められていた。1・2歳児クラスの午睡終了時刻は概ね15時、午睡開始時刻は12時半ごろである。しかしA園で13時前後になる日が見られ、午睡時間長さはA園がB・C園に比べやや短くなる傾向が見られた。

##### (4) 戸外活動時間

各園における戸外活動時間長さをFig. 7に示す。全園・全クラスとも戸外活動は毎日午前のみ実施である。園庭・公園等の滞在時間長さは約20、30分で、園庭の有無による大きな差は見られなかった。しかし移動時間も含めた戸外滞在時間では、B・C園が滞在時間に約5分長くなる程度であったのに対し、A園は約60分と最も長い結果となった。

また戸外活動に移行する際に、エントランスホールに到着してから靴を履き、実際に玄関を出るまでの所要時間(以下準備時間)をFig. 7に示す。エントランスホール内の下駄箱から靴を自分で取り出し、上がり框に腰掛け、靴を履く流れは全園共通であった。しかし準備時間長さはA園で約10分(5/16)、B園で約12分(5/22)、C園では約5分(5/19)という結果であった。例えばA園1歳児クラスは、靴を下駄箱から取り出した後、順次座って靴を履き始める事ができず、上がり框部周辺に混み合いが生じていた。座れなかった子ども達はエントランスホール部にある家具に上り寝そべり、這って遊びながら順番を待つ様子が見られた。またバギーに先に乗車した子どもたちは、待ちきれない様子も見られた。B園では靴を取り出す際に、下駄箱前で混み合う様子が見られたが、順次上がり框に腰かけて、保育者の介助を受けながら靴を履き始めることができていた。C園は、月齢ごとに3グループ(1グループ約9名)に分かれ、時間をずらし玄関を利用し、エントランスホール内で混み合うことはなく、B園同様、介助を受けながら各子どもが順に靴を履く様子が見られた。なおB園1歳児クラスで準備時間が約12分(5/22)であった日は、2歳児クラスと合同で戸外活動を行い、1歳児は靴を履き終わった後、2歳児クラスを待つ時間が含まれている。準備時間も含めると、A園1歳児クラスは戸外活動を行うにあたり、B・C園に比べかなりの時間を要していることが伺える。また複数クラスで合同の戸外活動を実施する際、A園3歳児クラス以上でも準備時間は約10分要していた。移動から複数クラス合同で戸

保育施設における3歳未満児の生活の流れからみた屋外環境のあり方について

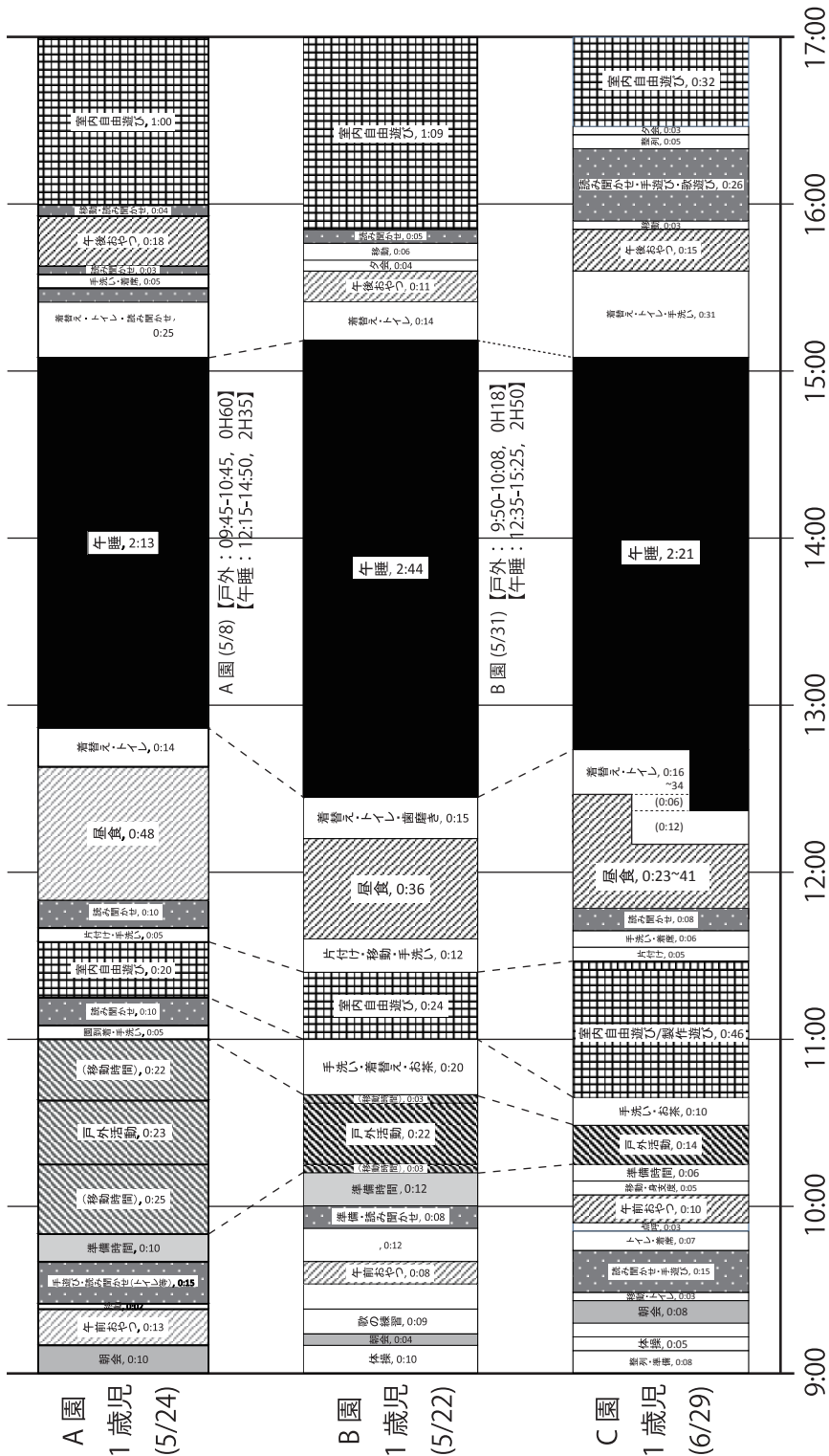


Fig. 5 Daily schedule (1-year-old class)

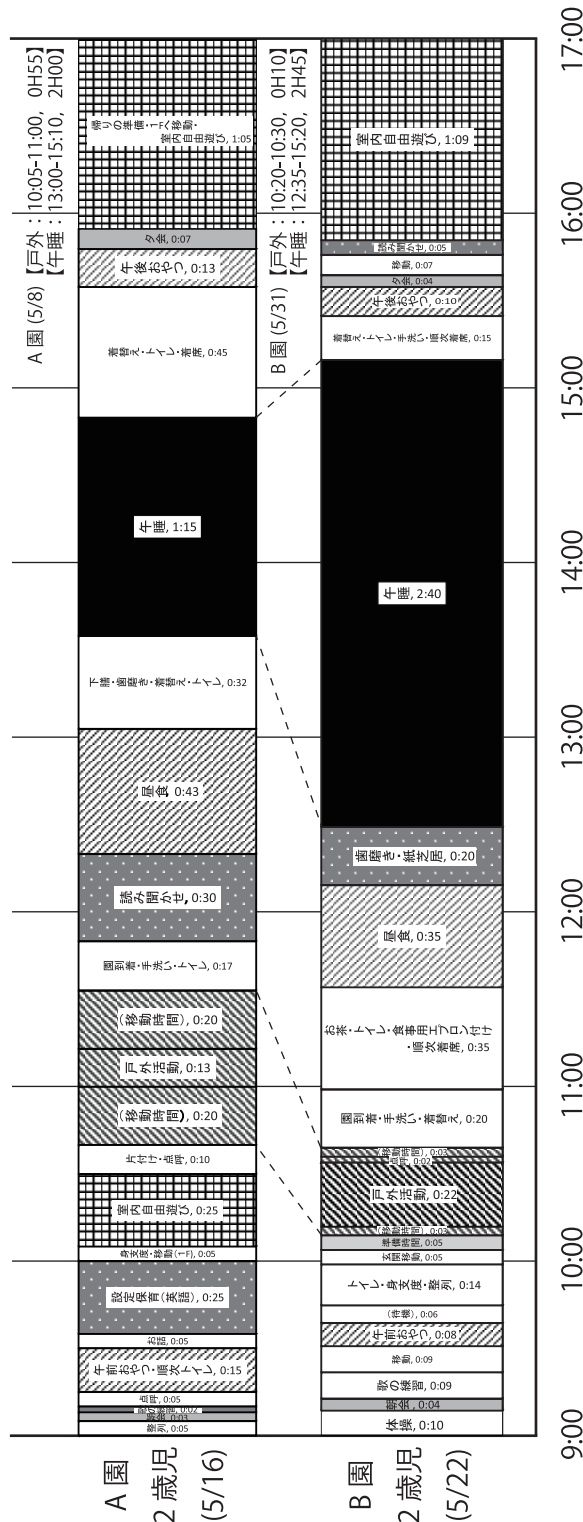


Fig. 6 Daily schedule (2-year-old class)

保育施設における3歳未満児の生活の流れからみた屋外環境のあり方について

| 園 | クラス | 調査日    | 人数  | 目的地      | 園からの距離 | 準備時間 | 戸外活動時間   |      |         | 室内活動時間      |             |       |           | 午睡時間   | 備考           |                                   |
|---|-----|--------|-----|----------|--------|------|----------|------|---------|-------------|-------------|-------|-----------|--------|--------------|-----------------------------------|
|   |     |        |     |          |        |      | 玄関到着-出発迄 | (a)  | (b)     | (a)+(b)=(c) | 自由遊び        |       | 設定保育      |        |              |                                   |
|   |     |        |     |          |        |      |          | 滞在時間 | 往復時間    |             | 午後          | 午前    | 製作遊び      |        |              | 読み聞かせ・手遊び                         |
| A | 1歳児 | 5月8日   | 14名 | X公園      | 片道500m | データ無 | 約30分     | 約30分 | 約60分    | 約45分        | 0           | 約25分* | 約15分      | 約10分** | 約155分        | *一斉でシール遊び<br>**ベープサート             |
|   |     | 5月16日* | 14名 | Y公園      | 片道450m | 約10分 | 約25分     | 約40分 | 約65分    | 約25分        | 0           | 約10分  | 0         |        | 約133分        | *午前中のみ調査                          |
|   |     | 5月24日  | 14名 | Z公園      | 片道450m | データ無 | 約23分     | 約47分 | 約70分    | 約60分        | 約20分        | 0     | 約42分      | 0      | 約133分        |                                   |
|   | 2歳児 | 5月8日   | 16名 | Z公園      | 片道450m | 約15分 | 約25分     | 約30分 | 約55分    | 約45分        | 0           | 0     | 約45分      | 0      | 約120分        | (戸外)4歳児と合同                        |
|   |     | 5月16日  | 不明  | W公園      | 片道400m | 約10分 | 約13分     | 約40分 | 約53分    | 約65分        | 0           | 0     | 約30分      | 約25分*  | 約75分         | (戸外)3歳児と合同<br>*英語保育               |
|   |     | 5月24日  | 17名 | Z公園      | 片道450m | 約15分 | 約35分     | 約30分 | 約65分    | 約36分        | 0           | 0     | 約25分      | 0      | 約155分        | (戸外)3歳児と合同                        |
| B | 1歳児 | 5月22日  | 8名  | 園庭(東園庭)  | —      | 約12分 | 約22分     | 約6分  | 約28分    | 約69分        | 約24分        | 0     | 約13分      | 約9分*   | 約164分        | ※遠足の練習を兼ねる<br>(戸外)2歳児と合同<br>*歌の練習 |
|   |     | 5月31日  | 10名 | 2Fルーフテラス | —      | 0    | 約18分     | 0    | 約18分    | 約43分        | 約62分        | 0     | 約26分(13分) | 約6分*   | 約170分        | (戸外)0歳児と合同<br>*歌の練習               |
|   | 2歳児 | 5月22日  | 15名 | 園庭(東園庭)  | —      | 約5分  | 約22分     | 約6分  | 約28分    | 約64分        | 0           | 0     | 約13分      | 約9分*   | 約160分        | ※遠足の練習を兼ねる<br>(戸外)1歳児と合同<br>*歌の練習 |
|   |     | 5月31日  | 16名 | 園庭(東園庭)  | —      | データ無 | 約10分     | —    | 約10分    | 約43分        | 約20分        | 20分   | 0         | 0      | 約165分        |                                   |
| C | 1歳児 | 5月19日* | 20名 | 園庭       | —      | 約5分  | 約20~30分  | —    | 約20~30分 |             | 0           | 0     | 約23分      | 0      |              | *午前中のみ調査<br>※AM身体測定あり             |
|   |     | 6月29日  | 18名 | 住宅地周遊    | 片道137m | 約6分  | —        | 約13分 | 約13分    | 約32分        | 約49分(製作と並行) | 0     | 約30分      | 約19分*  | 約141分(~163分) | *うたあそび                            |

Fig. 7 Length of daily activity time

外活動を実施する場合、準備時間は長くなる傾向があった。

### 3-2. 戸外活動における経験の相違

各戸外活動場所の環境を Fig. 8 に示す。ここでは園庭の有無により3歳未満児クラスの子どもの経験にどのような違いが見られたのか、戸外活動場面を中心に見ていく。以下、各園庭・公園での戸外活動時に観察された子どもの行動・遊び方を年齢クラス別に述べる。

#### (1) 0歳児クラス

いずれも遊び活動より外気浴が中心であった。A園は発達の様子に応じて公園等への移動はおんぶまたはバギー乗車であった。園庭を有するB園では、近隣住宅街の散歩の他、2Fルーフテラスにて1歳児クラスが遊ぶ傍で、保育者に抱っこされ外気浴をする様子が見られた。C園は乳児室1から裸足で園庭に出て、1・2歳児クラスが遊ぶ傍で、ウッドデッキで匍匐する様子や、芝生に座り外気浴をしていた。

#### (2) 1歳児クラス

A園はX・Y・Z公園で戸外活動を実施し、移動は発達の様子に応じて歩行またはバギー乗車(1台に6~8人乗)であった。各公園への移動中、保

育者と共に住宅の窓辺の置物や道端の植物を話題に、保育者と子どもがやり取りする様子が見られた。X公園では子ども達が原っぱ全体に広がり点在し、原っぱの端まで自由に探索する姿や、地面に座り雑草をいじって一人遊びする様子、立ったまま周囲を傍観するなど静かな活動が多く見られた。保育者はじっとしている子どもに声掛けをしながら、用意したシャボン玉を使い、歩行や走る動作を促す様子が見られた。また、原っぱで走る子どもがよく転倒する場面が見られた。一方公園Yでは、用意されたサッカーボールおよびテニスボール、シャボン玉を追い、走る、歩きまわるなど活発に遊ぶ様子が多く見られた。途中、疲れて立ち止まる様子はあったが、座り込んで遊ぶ子どもは殆ど見られなかった。また人工芝では転倒する子どもの姿はあまり見られなかった。Z公園では大型複合遊具等での遊びが中心で、走る、歩くなどの移動は遊具間に集中していた。またこの時、同じ時間帯に2・3歳児クラスが戸外活動を行っていたが、公園内で利用場所を棲み分けし、1歳児クラスと2・3歳児クラスが接触する場面は見られなかった。

B園は外気浴を行う0歳児クラスと合同でルーフテラス(ウッドデッキ敷)にて戸外活動を行ってい



| 園名     | A 園   |   |  |   |
|--------|---|---|--|---|
| 場所     | X 公園  | Y 公園  | Z 公園   | W 公園  |
| 写真     |  |  |  |  |
| 園までの距離 | 片道 500 m  | 片道 450 m  | 片道 450 m<br>(迂回コースで 650 m)   | 片道 400m   |
| 地面     | 雑草 / 芝生 / アスファルト舗装 / 土 (硬め)   | 人工芝   | 土 (硬め) / インターロッキング   | 土 (硬め) / インターロッキング / キングゴムチップ舗装   |
| 物的環境   | スプリング遊具 / 砂場 / 小型すべり台 / 恐竜型ジャングルジム / 円筒形スツール / 塀 / 植栽 / ベンチ                       | 無 (フットサル場)  | 大型複合遊具 (滑り台) / スプリング遊具 / ベンチ / 植栽  | ぶらんこ / 滑り台 / ベンチ / 植栽階段   |
| 園名     | B 園   |   |  | C 園   |
| 場所     | 園庭 (東園庭)  | ルーフテラス (2F)   | P 公園   | 園庭  |
| 写真     |  |  |  |  |
| 園までの距離 | —   | —   | 片道約 200 m  | —   |
| 地面     | 雑草 / 芝生 / 真砂土 / 土 (硬め) / 一部ウッドデッキ   | 木質樹脂系デッキ  | 雑草 / 芝生 / 土 (柔らかい)   | 木材チップ / 砂 / 芝生 / 土  |
| 物的環境   | 遊具 (滑り台, くぐり穴) / 菜園コーナー / 植栽 (果樹林) / 遊歩道  | 樹脂製プレイハウス (当時)  | 大型複合遊具 (滑り台, うんてい, 吊り橋, 肋木, 網渡り用ロープ) 砂場 / 東屋 / ベンチ / 植栽                            | 小型複合遊具 (スロープ, すべり台, くぐり穴) / ウッドデッキ (回遊路) 砂場 / 収納棚 / 植栽 / オーニング                      |

Fig. 8 List of outdoor activity places

た。ここでは隣接する線路を行き来する電車に反応して走る、ボールを蹴る、手摺に登る、外を眺める様子が見られ、常に活発に動き床に座り込む子は殆ど見られなかった。また東園庭では2歳児クラスと合同で戸外活動を行い、園庭内を一人で走り回る子や、2歳児クラスがいなくなったのを見計らい複合遊具で遊ぶ子や、園の敷地外を一人で傍観する子、家庭菜園でしゃがみ込み野菜の生育状況を観察する子など、子どもがそれぞれの興味・関心に沿って遊びの場所を選択し、分散して過ごす様子が見られた。

C 園では3グループ(約9名ずつ)が時間をずらし住宅街を歩行での散歩または園庭で戸外活動を行っていた。住宅街の散歩では、季節の植物について保育者と会話をする姿や、近隣住民と挨拶をする様子や、横断歩道の渡り方のルールを教えていた。園庭では砂場や、保育者の介助を受けながら複合遊具で遊ぶ一方で、ウッドデッキ部をウロウロする、外部階段の横ルーバーを手摺代わりに使いスロープに登る、周囲の様子を一人で傍観する姿など、園庭内を点在する子どもの様子が見られた。

### (3) 2歳児クラス

A 園では、3歳児または4歳児クラスと手を繋ぎ

歩行で移動し、Z・W 公園で戸外活動を行っていた。Z 公園では4歳児クラスと合同で戸外活動を行っていた。4歳児がかくれんぼや鬼ごっこなど集団で遊ぶ様子とは異なり、2歳児クラスは公園内に点在して一人遊びをする様子が多く見られた。また4歳児クラスと一緒に走ってはみるが、転倒して続かない姿があった。スプリング遊具(使用対象年齢:3歳児以上)では、自力で降りることはできるが、乗ることが出来ない様子や、草花を摘む、ベンチの座面をテーブルに見立てた、ごっこ遊びが見られた。W 公園では滑り台等の遊具で遊ぶ、かけっこや段差を使った遊びや、柵から下を見るなどの探索活動も見られた。また各公園への道中、遊歩道では保育者と共に昆虫や植物を観察する様子が見られた。

B 園は東園庭で、単独クラスまたは1歳児クラスと合同で戸外活動を行っていた。家庭菜園の生育状況の観察や花を触るなど静的な遊びの他、複合遊具での遊び、かけっこ、追いかっこなど動的な遊びをしており、活発に走り回る様子が見られた。

C 園では一部時間帯が重なりながら、0・1・2歳児クラスが合同で戸外活動を実施していた。複合遊具で繰り返し遊ぶ、園庭を取り囲むウッドデッキを

走る、子ども3人が植栽（ツツジ）を摘み、会話を  
する様子が見られ、1歳児に比べ、遊び方が明確な  
印象を受けた。

#### 4. 考 察

##### 4-1. 園庭の有無による生活の流れの相違

園庭の有無という条件の異なる3園において、室内自由遊びや戸外活動、食事や午睡などの大きな生活の流れは共通していたが、戸外活動時間及び午睡時間長さに違いが見られた。公園等への移動時間を除いた戸外活動時間長さはどの園も20分から30分の間であった。しかし移動時間を含めると、B・C園は約30分程度であるのに対し、A園が約60分程度と、大きな差が見られた。この傾向は1・2歳児クラス共通であった。また午睡時間長さについて、起床時刻は全園15時前後でほぼ共通であったが、午睡時間長さはA園がB・C園に比べやや短くなる傾向が見られた。例えばA園2歳児クラスで戸外活動の出發が通常(午前10時5分頃)より遅くなった日については、午睡開始時刻も遅くなり、午睡時間が短くなっていった。戸外活動の出發時刻が後ろにずれるほど、食事や午睡開始時刻が遅くなる傾向が見られた。以上のことから、園庭の有無によって保育所における3歳未満児の生活の流れは、戸外活動時間及び午睡時間の長さの面で影響を受けることが示唆された。

##### 4-2. 園庭の有無と戸外活動での経験の相違

園庭の有無により差が大きかったのは、各戸外活動場所への移動時間である。A園は往復で約30分から40分、B・C園は約5分であった。移動方法はB・C園は歩行、A園2歳児クラス以上は歩行、1歳児クラスは2,3名が歩行でその他はバギー乗車であった(5月時点)。子どもの発達状況により移動方法が徐々に歩行へ移行することから、子どもの歩行の機会は園庭を有さないA園の方が多くなっていく可能性がある。またA園での公園等への移動時間では、移動経路にある昆虫や草花などの自然、地域資源を話題に保育者と子どもが室内での活動時より積極的に会話する様子が多く見られ、保育者との子どものふれあいの時間になっている。戸外活動での異年齢保育の実施状況では、戸外活動時には、3歳以上児クラスと0・1歳児クラスでの異年齢保育は

行われていなかった。B園では、1・2歳児、0・1歳児が、C園では0歳から2歳までが園庭等で一緒に戸外活動を行っていた。A園では、Z公園で1・2・3歳児クラスと同じ時間帯で過ごしつつも、公園内で活動エリアを棲み分けし、1歳児クラスは2・3歳児クラスと接触することはなかった。子どもの成長によって戸外活動の内容、異年齢保育の実施状況も変わっていくことが予想され、引き続き年間を通じて、慎重に見ていく必要がある。

##### 4-3. 戸外活動への移行時間と園舎環境

保育の質をみる評価尺度のひとつに「保育環境評価スケール①3歳児以上( ECERS-3)」及び「保育環境評価スケール<乳児版>(ITERS-R 日本語版)」がある。これらの評価スケールによれば3歳以上及び3歳未満児のいずれにおいても、活動の「移行時間」<sup>3)</sup>及び子どもの「待ち時間」<sup>4)</sup>は短い方がよいとされており、活動の移行場面において、子どもの待ち時間が少なくなるような空間上の工夫が重要であると思われる。戸外活動へ移行する際、C園では、玄関へ移動してから靴を履き、玄関を出るまでの所要時間が約5分であったのに対し、A園1歳児クラスでは約10分程度要していた。C園では、各クラスの子ども全員が座り靴を履くスペース、具体的には上がり框の長さ(C園:L=5.8m)が十分であったが、A園では最大6~8人しか座れない状態であった(L=2.5m, 現員14名)。A園での戸外活動の移行時間が長くなったのは、同じクラスの子ども全員が座り靴を履くのに十分な上がり框部の長さが無いことが一因であると思われる。2歳児クラスにおいても、靴を左右逆に履く子どもやなかなか靴を履こうとしない子どもがいるため、まだ保育者の介助が必要な様子が伺えた。このことから3歳未満児が利用するエントランスホールについては、子どもがそれぞれの自立度に応じて、保育者の介助を受けながら靴を履く事ができるスペースを用意するなど、玄関周辺の建築環境への工夫・配慮が特に必要である。特に園庭のない園舎環境の場合、午前中の生活の流れに余裕をもたせる為にも重要である。

##### 4-4. 0・1歳児向け屋外遊戯場の在り方

現在、2歳児クラス以上については一人当たり3.3m<sup>2</sup>以上の屋外遊戯場の設置が義務付けられているが、0・1歳児クラスについては屋外遊戯場の設

置義務はない。先行研究<sup>5)</sup>でも報じられている通り、0・1歳児においても、外気浴をはじめ戸外活動は毎日実施されていた。例えばA園1歳児クラスで、3つの公園等での遊具構成や地面素材の違いにより、子どもの行動や遊び方にも違いが見られたことから、1歳児にとっても、多様な動きや体を動かす経験を得るために、戸外活動の場は必要であると思われる。また1・2歳児クラスは公園内に点在して一人遊びをする様子が多く見られ、3・4・5歳児クラスより、保育者がより広範に目を配り、注意を払っている印象を受けた。その他、保育者は子どもの発汗や顔の発赤状況を見ながら、戸外活動時間の長さを決めていく様子が見受けられた。初夏で日差しが比較的強かった日は、ウッドデッキ表面を手で触り火傷をしない熱さであるか常に確認している様子も見られた。発達の特徴から、乳児はほふくなど、地面に直接接する行為が多く皮膚も薄い。火傷を防ぐために外構素材の表面温度等にも気を配り材料を選択する必要がある。このことから戸外活動時間の長さは、園庭の有無だけでなく、暑さや日陰の有無、外構表面温度の園庭環境の条件にも左右されることが伺える。また乳児がぐずついた場合の気持ちの切り替えに使用するなど、屋外遊戯場は運動や遊び以外の場面においても利用されている。その他0・1歳児が草やウッドチップを口に入れ、慌てて保育者が取り出す場面や、砂を口に入れてしまうとの理由から、1歳2ヶ月ごろまでは砂場で遊ばせることを控えるという保育者の声もあり、園庭環境で配慮すべき点は2歳児以上と0・1歳児では異なることが伺える。今後は0・1歳児クラスの戸外空間における活動の現状を更に詳しく調査し、0・1歳児向け園庭環境の在り方を探る必要があると考える。

## 5. おわりに

3歳未満児期は、1年を通じて子どもの発達による変化が大きい年齢期であることから、引き続き年間を通して、子どもの行動と生活の流れ、建築環境の関係をみていく必要がある。最後に、子どもの動作・姿勢面から気づいた点として、読み聞かせや、散歩の準備（靴を脱ぎ履きする順番待ち）、食事等への活動の移行場面（配膳や食べ終わった後）など、一つひとつの行為時間長さは短い、1日全体でみた

場合、「座る」場面が多く、子どもが自由な姿勢で体を動かすことができる時間は限られている印象を受けた。例えば、設定保育でよく見られた「読み聞かせ」があるが、この間は、座って話を聞くルールであり、勝手に立つことや、歩行することは許されていない。同列に扱うことは出来ないが、成人の場合、座位姿勢の長さや健康の関係について近年議論がある。このことについては、今後の調査課題としたい。

## 〔要約〕

本稿では、保育所園舎・園庭などの建築環境条件の違いが、保育所における子どもの生活と行動にどのような違いが見られるのか実態を明らかにし、子どもの育ちを支える保育環境のあり方を考察することを目的とした。本論ではまず、近年利用率の高まる3歳未満児を対象に、保育需要の高い都市部で保育施設を計画する際、立地を大きく左右する屋外遊戯場（以下、園庭）の有無に焦点を絞り、園庭の有無により保育所における子どもの生活の流れ、戸外活動での経験にどのような違いが見られるのかを明らかにした。その結果、園庭の有無により、保育所での3歳未満児の生活の流れは、午前中の戸外活動時間及び午睡時間の長さの面で影響を受けることが示唆された。

## 謝辞

本研究の遂行に当たり多大なるご協力をいただきました株式会社コピーアンドアソシエイツ代表取締役小林照男様、各園施設長、保育士の先生方、園児、保護者の皆様、および日本女子大学定まり子研究室の皆様にご記してお礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 保育所等関連状況取りまとめ、厚生労働省、平成28年4月1日
- 2) 柴山真琴、子どもエスノグラフィー入門—技法の基礎から活用まで、新曜社、48（2006）
- 3) テルマ・ハームス、リチャードM.クリスフォード、デビィ・クレア、埋橋玲子訳、保育環境評価スケール①3歳児以上、法律文化社、66-67（2016）
- 4) テルマ・ハームス、デビィ・クレア、リチャー

ド M. クリスフォード, 埋橋玲子訳, 保育環境評価スケール②<乳児版>, 法律文化社, 64-65 (2004)

- 5) 小池孝子, 定行まり子: 都市部における保育施設の屋外保育環境について 東京都区部における複合型保育所の施設環境に関する研究 その2, 日本建築学会計画論文集, 73, 628, 1197-1204 (2008)

## 参考文献

- 1) 厚生労働省: 保育所保育指針<平成29年告示>, フレーベル館 (2017)
- 2) 文部科学省: 幼稚園教育要領<平成29年告示>平成29年3月31日, フレーベル館 (2017)
- 3) 内閣府: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>平成29年3月31日, フレーベル館 (2017)
- 4) 小川信子他: 保育所における生活と保育室の使われ方 保育所の平面計画に関する研究 (2), 日本建築学会論文報告集, 276, 123-130 (1979)